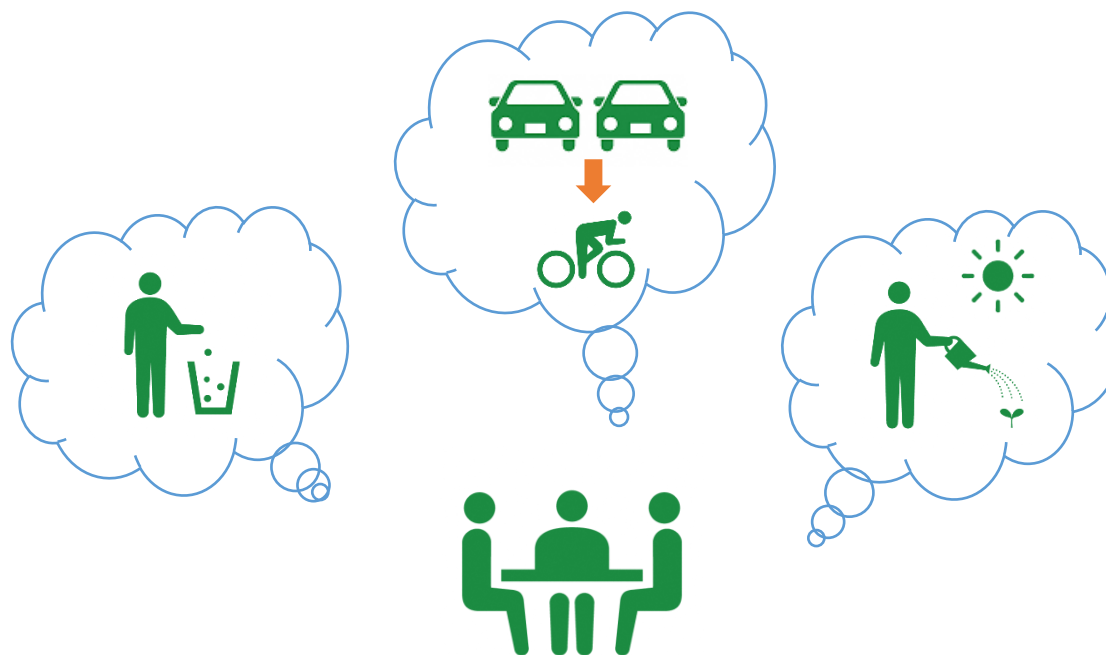
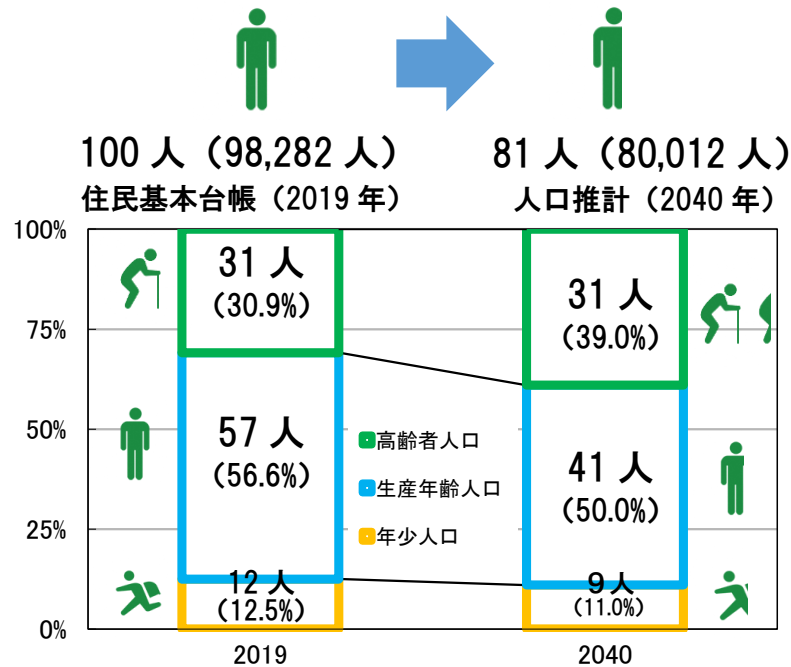


島田市データ BOOK



数値でみる島田市

1. 島田市が 100 人だったら

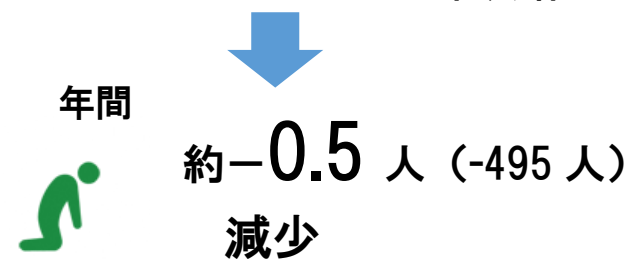
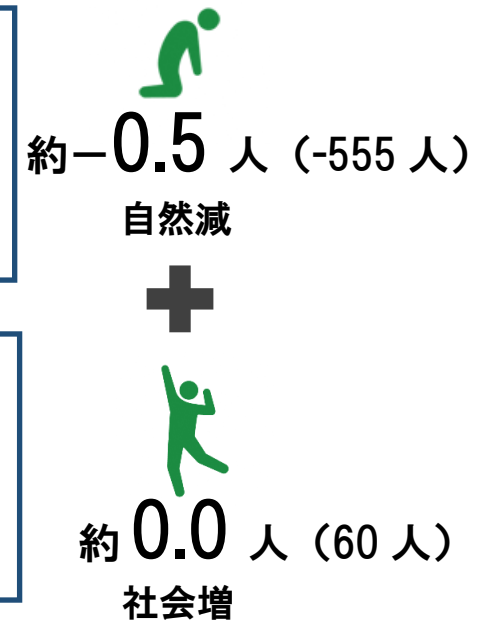
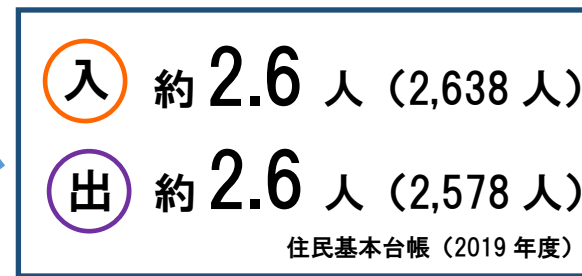
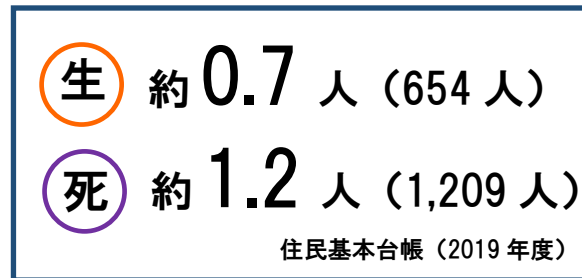


- 島田市の人口は、1995年をピークに減少が続いています。
- 20年後には全体の約2割が減少すると推計されています。
- 少子高齢化の影響から自然減がつづいています。

参考資料：島田市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(令和2年3月改訂)

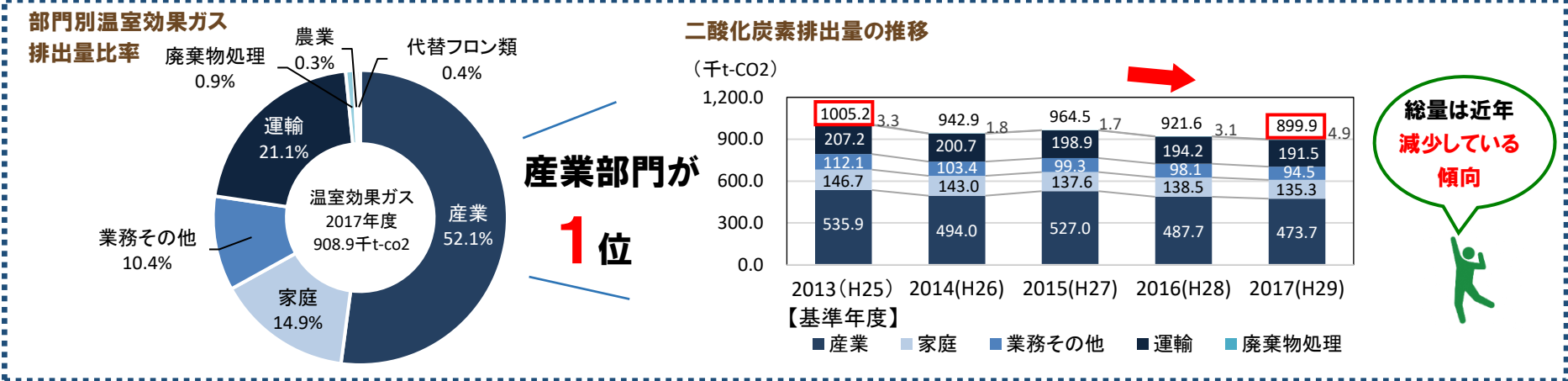
(住民基本台帳(2019年12月末日)、国立社会保障・人口問題研究所の推計、政府統計 e-stat)

2. 人口増減の理由



3. 温室効果ガスの排出

3-1. 島田市が排出している二酸化炭素（部門別）（2017（平成29）年）

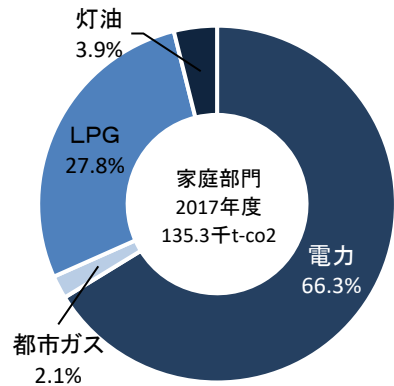


3-2. 主な部門での排出割合



② 家庭部門

家庭部門からの
温室効果ガス排出量比率



電力が
1位

【家庭】

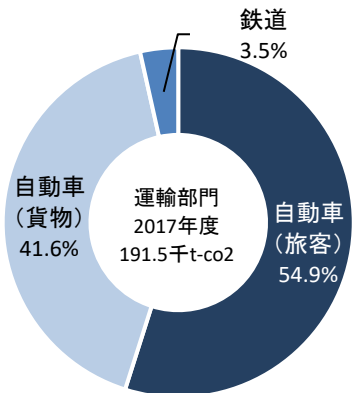
世帯数	2013(平成25)年度 34,007 世帯	→	2017(平成29)年度 34,974 世帯
温室効果ガス排出量	約 14 万7千t-CO ₂	→	約 13 万5千t-CO ₂

世帯数は増えていても、温室効果ガス排出量は減っている
→ 節電行動が進んでいる



③ 運輸部門

運輸部門からの
温室効果ガス排出量比率



自動車
(旅客)が
1位

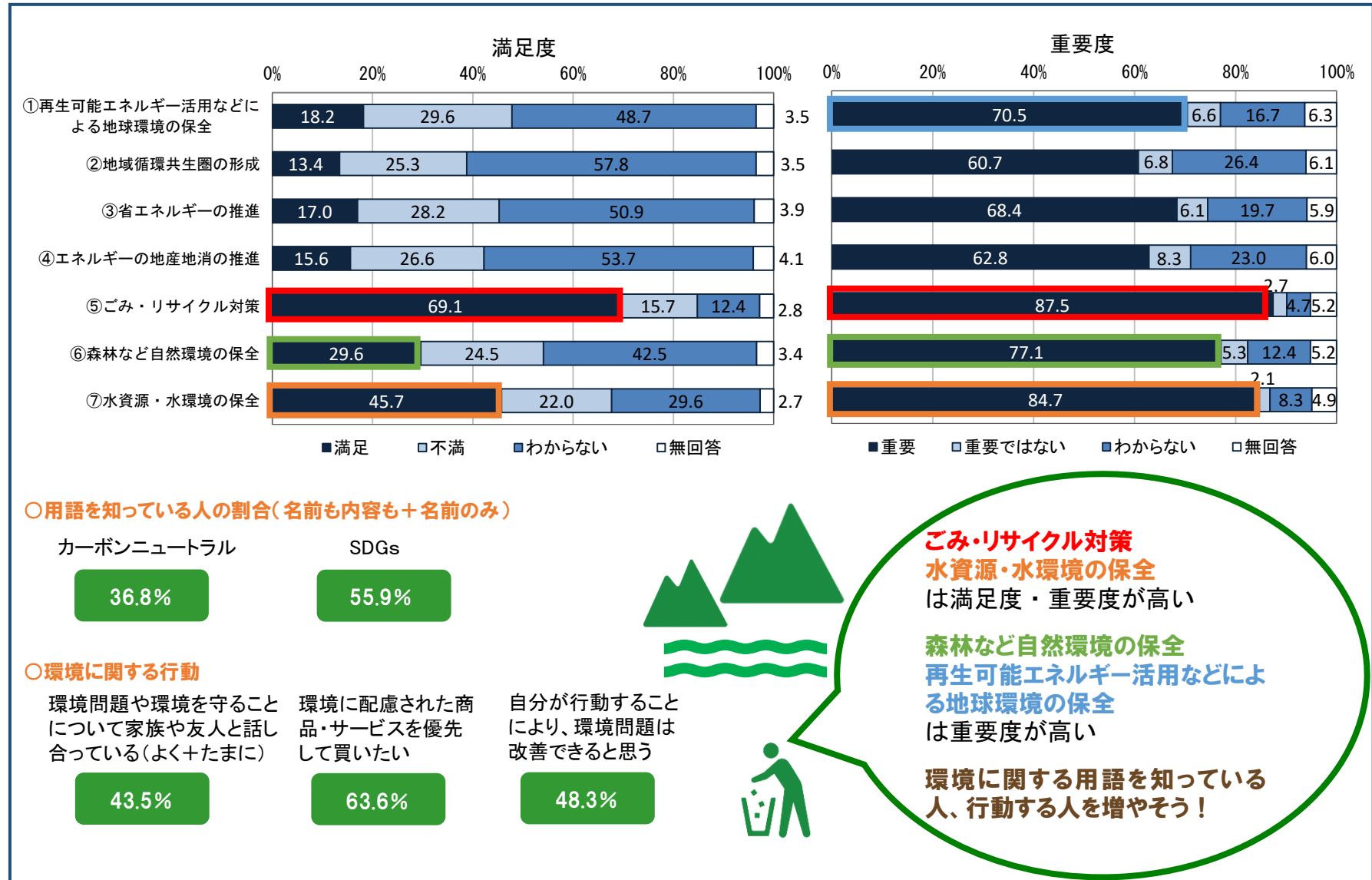
【自動車(旅客)】

自動車保有数	2013(平成25)年度 68,085 台	→	2017(平成29)年度 68,584 台
温室効果ガス排出量	約 11 万2千t-CO ₂	→	約 10 万5千t-CO ₂

自動車(旅客)台数は増えていても、温室効果ガス排出量は減っている
→ エコカーへの転換が進んでいる

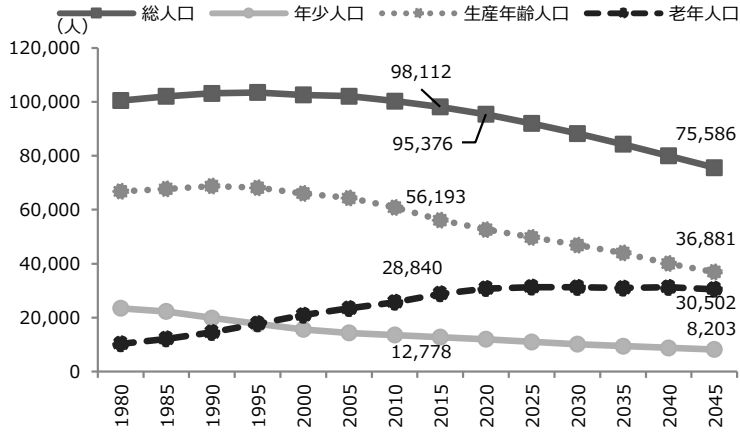


4. 総合計画市民意識調査の結果 ※2021（令和3）年結果速報（回答者 1,006 人）

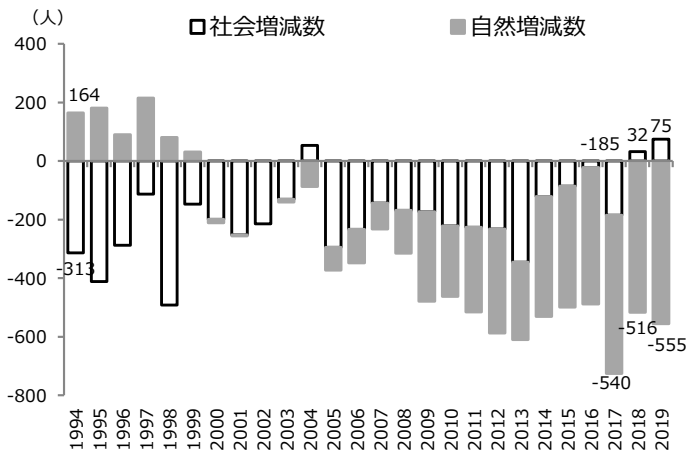


■基本情報

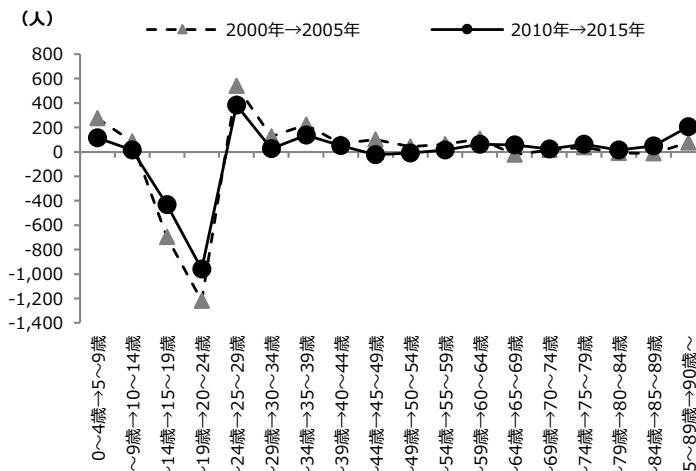
1 人口・産業



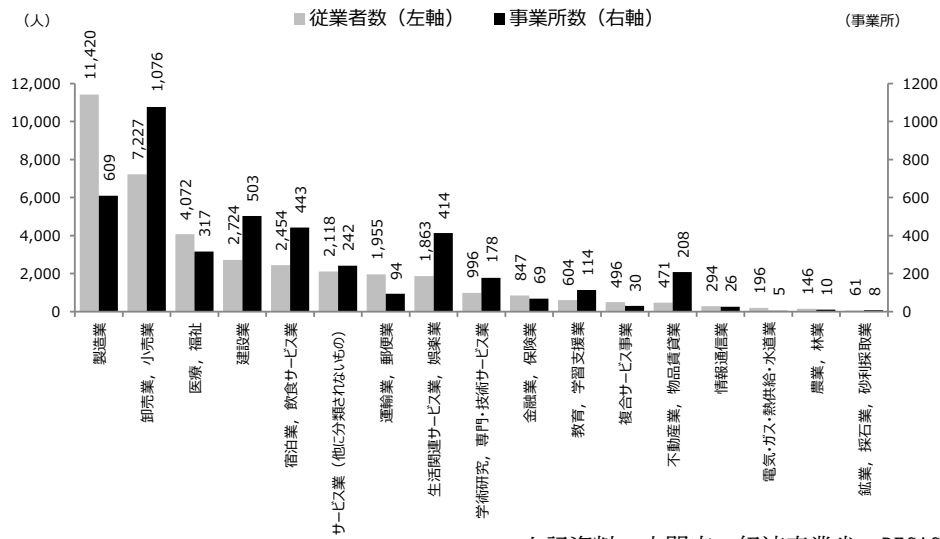
総人口は近年減少傾向が続いており、年少人口(0~14歳)と老年人口(65歳以上人口)を比べると、2000年から老年人口の数が年少人口を上回っています。環境活動の担い手でも人手不足や高齢化が心配されます。



社会増減(島田市への転入と島田市から転出の差)と自然増減(生まれた人数と亡くなった人数との差)をみると、自然増減では減少傾向が続いていますが、社会増減では、近年増加に転じているのが特徴です。新たな島田市民にも豊かな環境に関心を持っていただきたいです。



人口の年齢別の増減をみると、2000年から2005年の増減では、10歳代が市外に出て人口減少となっていました。2010年から2015年の増減になると、市外に出る数がやや減っているほか、20歳代の増加数がやや大きくなっています。今後も住みよい環境づくりに努めることが大切です。

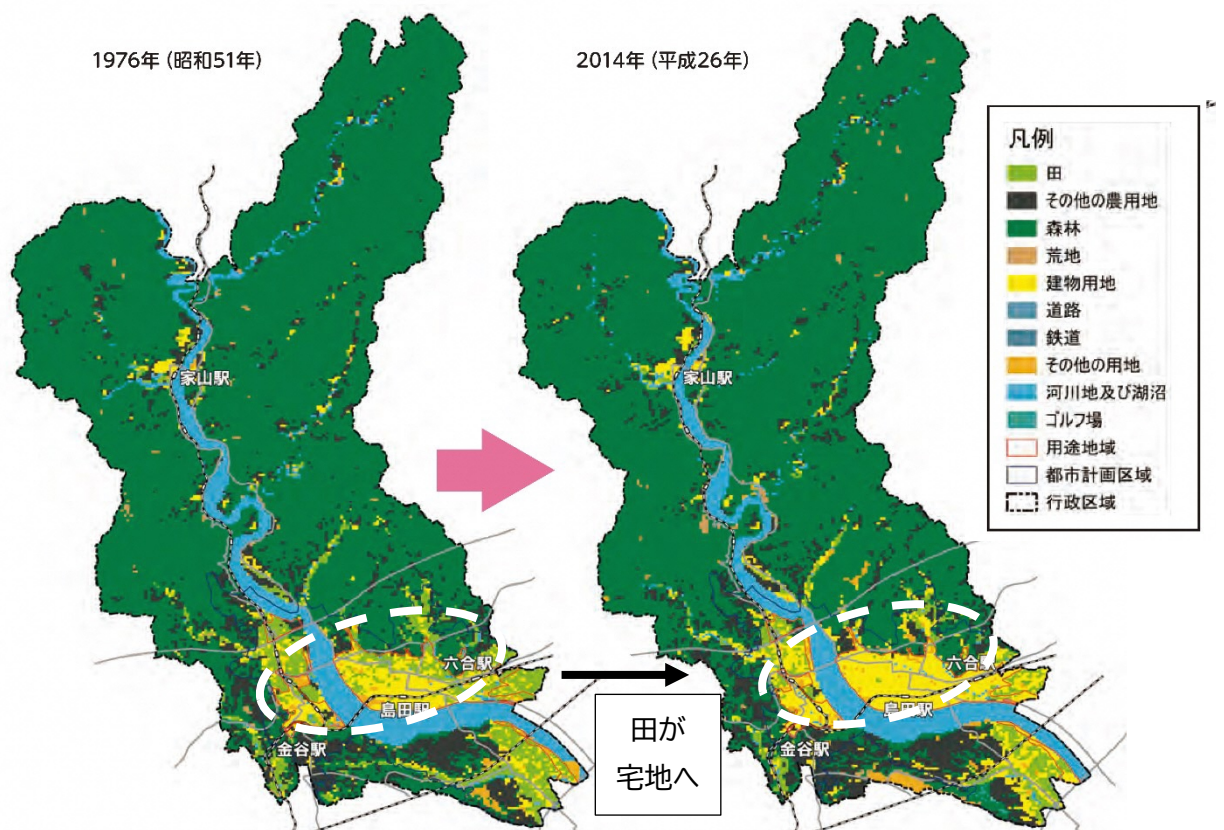


従業員数は、製造業が多く、事業所数は、スーパーなどの卸売り・小売業が最も多くなっており、環境へ影響力もあります。

上記資料：内閣府・経済産業省 RESAS（地域経済分析システム）

2 土地利用の変遷

本市の用途地域内及びその周辺における土地利用については、1976年から2014年までの約40年間に、田から建物用地に変化しています。



資料：国土数値情報（国土交通省）